

## 神戸トリックアート不思議な領事館

神戸トリックアート不思議な領事館は、錯覚の芸術をテーマにした魅力的で面白い常設展示スペースです。この2階建ての洋風住宅は20世紀初頭にヒルトン氏とその家族の邸宅として建てられ、第二次世界大戦後はパナマ領事館として使用されました。外観は白い漆喰の壁に濃い緑色の木製の装飾が特徴です。1階の大きな扇形の窓とそれにマッチした窓の上の細部、さらに広々とした玄関口と開放的なポーチが、この家に高級感のある品格を与えています。この家には伝統的な縁側と窓を持つ和風の翼部が付属しており、別棟の使用人用の建物もあります。

内部では、没入型の展示が両階にわたって広がっており、「神戸オリジナルシリーズ」、「アドベンチャーワールド」、「錯覚の世界」、「脳トレーニング」、「傑作」、「迷路」の6つの連続するセクションに分かれています。いくつかの大きなトロンブ・リュウ（だまし絵）の情景は、訪問者が実際に中に入れるようにデザインされており、中に入ると巨大な神戸牛に押しつぶされたり、サーフボードに乗ったり、サメに襲われたり、巨大な吸血鬼によってひっくり返されたワイングラスの中に閉じ込められたりしているように見えます。各展示には、面白いトリック写真を撮影するためのアドバイスが添えられています。また、スケールや遠近法、反射、重力などを駆使した部屋サイズの錯視を体験することもできます。さらに、いくつかの興味深い錯視パズルにもチャレンジ

できます。神戸トリックアート不思議な領事館は、ユーモアのセンスを持ったクリエイターによって見事にデザインされ、キュレーションされており、子ども連れの家族、カップル、友人グループなど、あらゆる年齢の訪問者にとって楽しい体験を提供しています。この施設はうろこグループによって運営されています。